

令和2年度 第2回芦屋市立美術博物館協議会 会議録

令和2年度第2回芦屋市立美術博物館協議会は政府基本方針に基づく新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、書面開催とすることとしました。

日 時	令和3年3月1日（月）～3月12日（金）
場 所	書面開催
出席者	会 長 藪田 貫 副会長 岡 泰正 委 員 飯尾 由貴子 委 員 中島 幸夫 委 員 若林 敬子 委 員 安部 太一郎 委 員 岩井 恵子 委 員 星野 剛一
事務局	社会教育部長 田中 徹 生涯学習課長 長岡 良徳 生涯学習課係長 竹村 忠洋 生涯学習課 石田 直也 生涯学習課 松本 淳子

1 議題

- (1) 令和2年度事業報告について
- (2) 令和3年度展覧会予定について
- (3) その他

2 提出資料

- (1) 資料1 会議次第
- (2) 資料2 2020年度事業報告書
- (3) 資料3 2020年度展覧会実績
- (4) 資料4 2020年度入館者数内訳
- (5) 資料5 2020年度展覧会報告
- (6) 資料6 2021年度展覧会日程

3 意見内容

- (1) 事業報告について

ア 藍のファッション展について

少々ボリューム不足。原資など、様々な事情があるだろうが残念。藍染の工程などを映像で見せるとか、一工夫欲しかった。一点一点は、素晴らしかった。

イ 大コレクション展について

素晴らしい企画で、見応えがあった。展示の労力は大変だったと思うが、まだ見ていない作品もあると思うので、今後も期待したい。チラシも良かった。作品の写真撮影も解禁し、SNS 発信にも注力と新企画が目白押しで、「変えよう！変えてやろう！」との変化への意気込みを感じた。

ウ 迷路絵本展について

子ども連れの観客動員を誘引したようで、いい企画だった。親子で鑑賞という視点は、今後も取り入れる必要がある。出口に新しく設けられた保育園児の絵画展示コーナーでは、子供が絵を指さして、親御さんに話す微笑ましい光景に出くわした。良い試み、しかもスピーディな取り組みと感心した。

エ 昔のくらし展

無料公開初日に来館したら、なかなかの盛況で正直驚いた。コロナ禍の中だが、昔の電気釜を前にして語りあう老夫婦や、打出焼きの作品をじっくり眺める中高年など、思い思いに芦屋の歴史を楽しまれている様子だった。今回の盛況の背景には、無料公開の効果もあると思う反面、本来はもっと沢山の方々が歴史展示を見たいと思っているのに、有料の為に断念されているのではないかと思った。打出焼き、水車絵図、猿丸酒造と盛りだくさんで楽しませてもらった。

(2) 次年度事業について

ア 植松展 見えないものへ、触れる方法—直観—について

楽しみであるが、どれだけ多くの方々が興味を抱き、足を運んでもらえるか疑問である。

イ スポーツ展

オリンピックの行方も不透明な折、盛り上がるかどうか疑問である。

ウ 村上三郎展

芦屋と言えば具体だが、大変マニアックで好みが偏るので難しいと思う。秋の「コレクション展」も具体がテーマになっている。好みが分かれるところだと思う。

エ 歴史展示について

目玉は会下山遺跡特集展示だけか。

(3) その他

ア 美術博物館の方向性について

多くの方々が見たがる作品の展示なのか、一部の愛好家のための展示なのか。1つでも、親しみやすく、興味の湧く「行ってみたい！」というワクワク感を喚起する企画もあっていいのではと思う。伊丹が閉館中なので、コラボして芦屋で開催するとかの工夫はできないか。

形而上学に深く考えさせる企画も必要だが疲れている心を癒し、ホッとさせる空間作りも市民のための場所であれば、大切なのではないかと考える。

また、関係者方々のご意見もお伺いしたい。

イ 歴史展示について

近隣の歴史系博物館の入館料は無料なので、将来的には、歴史展示の無料化も検討いただきたい。前回の協議会で先生方から「芦屋の子供達に、芦屋の歴史をわかり易く伝える

には、どうしたらいいかをもっと議論した方が良い」「近隣の博物館がどうしているかを研究して、他所と比較しながら、“芦屋バージョン”を作っていく事が大事」の指針を戴いた事が、強く印象に残っている。

各市を調べてみると、芦屋と比較して、何れの博物館も以下の点が異なりました。

- (ア) 展示スペースは大きく、ゆったりしている。
- (イ) 遺跡の位置をわかり易く、市域のジオラマを用いて表示している。
- (ウ) 博物館ボランティアを育成している。
- (エ) 入館料は無料である。

以上、今後の一助にいただければ、幸いです。

以上